

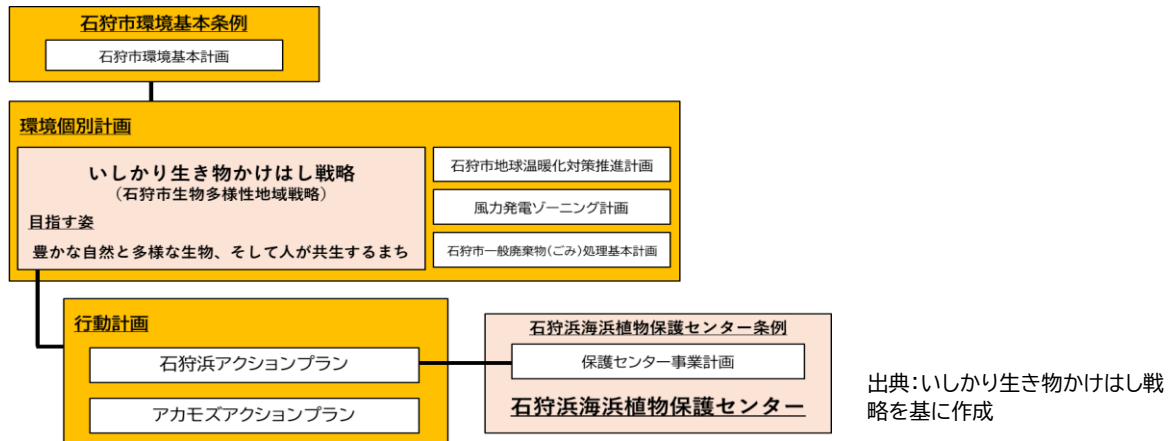
令和6年度第2回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会【資料3】  
令和7年度石狩浜海浜植物保護センター事業計画

石狩海岸地域は、北海道自然環境保全指針において「すぐれた自然地域」に抽出されるとともに、大都市近郊において、海岸砂丘の生態系を色濃く残す自然海岸として、全国的にも大変貴重な地域となっています。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつあります。

このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残して行くためには、市民、行政、研究機関とが協働して普及啓発活動や調査研究活動に取り組むことが不可欠です。石狩浜海浜植物保護センター(以下、「保護センター」)は、その活動拠点として、平成12年5月に開設しました。

【位置づけ】

石狩浜海浜植物保護センター条例に基づき、石狩浜に自生する海浜植物の保護等を行い、及び植物を始めとする自然環境の保全に関する意識の普及啓発を目的に事業を実施していきます。事業の方針については、石狩市環境基本計画に基づく、生物多様性の保全を目的に策定した「いしかり生き物かけはし戦略」や、地域・種ごとに事業を実施するための個別計画「石狩浜アクションプラン」に基づき事業を計画していきます。



【事業構成】

	事業項目	事業内容	目指す姿 (石狩浜アクションプラン)
I	自然情報発信・体験学習事業	海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図り、石狩浜の保全に関する意識へつなげる。	石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり
II	調査・研究・保全事業	海浜植物保全に関する生態・生育情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。	データに基づく保全対策
III	自然資源の保全・活用事業	海浜植物等保護地区における海浜植物や地形の状況把握、過度なレジャー利用に対する注意喚起、本来の保護地区としての利活用に関する維持管理等を実施する。	自然資源の適正管理と適正利用

【事業分担】

	事業(大項目)	事業(中項目)	正規職員	非正規職員	委託事業者
I	自然情報発信・体験学習事業	1. 展示室	○	○	
		2. 観察園	○	○	
		3. ハマナス再生園	○		○
		4. 情報発信/連携	○	○	
		5. 体験プログラム	○		○
		6. 情報発信/連携	○		
		7. 調査研究の発信	○		
		8. 来館者のニーズ、意識把握	○	○	
II	調査・研究・保全事業	1. 現植生・生物相の把握	○		○
		2. 植生管理	○		○
		3. 希少種	○		○
		4. 外来種	○		○
		5. 資料・データの集約・管理	○		○
III	自然資源の保全・活用事業	1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理	○	○	
		2. 景観保全による観光資源利用	○	○	
		3. 保護地区のルールの普及啓発	○	○	

I. 自然情報発信・体験学習事業

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目		目的	年度目標	具体的な業務内容
1. 展示室				
1-1常設展示の維持管理	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。	事業項目Ⅱで得た調査データ・標本等を活用した状況を確認する。	↗	・補修、修繕の有無を点検(日常業務) ・前年に引き続き見直しをもとにした修正
1-2.展示室と観察園の連動した見学	展示室のみの利用者が多くみられることから、観察園の利用を促すようなしかけを実施し、海浜植物の普及啓発につなげる。	展示室内での観察園の開花情報の更なる発信と、SNSやオンラインを活用した情報の発信を引き続き実施する。	→	・日常的な来館者への声かけ ・自発的な利用への展示の見直し ・クラフト体験を通じた実物観察 ・SNSを活用した開花情報の配信
2. 観察園				
2-1.園路およびサインの整備・維持管理	石狩浜で見られる連続した植生帯を現地の調査をもとに展示と連動するように再現し、来館者が快適に園内を利用できるように整える。	観察に適した園路・木道の維持管理や、植物名等のサイン表示の点検・管理・修繕をする。	→	・日常業務内で点検・管理 ・季節に応じたサインの追加、更新 ・害虫等の防除 ・園内の清掃
2-2.ゾーンの目的に沿った植生維持管理		再現区：Ⅱ-②-2で検討した管理手法を用いて管理する。 見本品：主要な海浜植物を短い距離で観察できるように整える。	→	・普及員による日常業務として管理
3. ハマナス再生園				
3-1. 整備・維持管理	ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざす場の拠点として、現地情報をもとにハマナスを主体とした植生管理を進め、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会とともに活用を図る。	Ⅱ-②-2で検討した管理手法を用いてハマナス群落の維持・管理を継続する。	→	・普及員等による日常業務として管理
3-2. ハマナス再生プロジェクトと連携した活用の展開		再生園を活用した普及啓発活動の実施。 ハマナスの花びらや果実を活用して石狩浜のPRをする企業への協力。	→	・共催イベントの実施(はまなすフェスティバル) ・ハマナスの花弁・果実の採取管理
4. 体験プログラム				
4-1.センターを活用したプログラムの実施	石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の生物多様性について知る機会の創出を目的に、保護センター施設を活用した取り組みやすい仕組みづくりと実施をアクティブラーニングを主体として進める。	既存のプログラム実施。 体験を通じて海浜植物や海浜地、生物多様性を学べるプログラムの検討・検証。	↗	・教育機関の環境学習の実施/検証/修正 ・補助教材の見直し/修正
4-2.センター外での普及啓発の実施	センター外を会場に、石狩浜の海浜生態系を中心として、自然環境に興味を持ってもらうための普及啓発を実施する。	外部団体との連携を活用しつつ、保護センターのプログラムを市内外問わず普及啓発していく。	↗	・連携団体主催事業への積極的な参加(CISEネット/館ネット) ・SNSや市内回覧を活用した普及啓発

4-3.参加型自然情報の収集	生物多様性に関わる保全活動(調査・研究等)を市民参加で実施し、石狩浜の自然に興味関心を持つ人を増やす。	植生管理と連動した参加型資源活用プログラムの開発。 石狩浜に生息・生育する動植物の調査体験プログラムの開発。	→	・Ⅱ-2-2で検討した管理手法を活用したプログラムの検討、検証 ・動植物に関する体験プログラムの検討
5. 情報発信/連携				
5-1.ホームページ維持管理 5-2.情報誌の発行 5-3.近隣施設での情報案内	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。	海浜植物や、保護センターでの情報、石狩浜の生物多様性について広く情報を発信する	→	・調査写真や、観察園の開花情報などを随時ホームページにて更新(目安として月に1度) ・年に3回の機関誌発行 ・市内回覧を活用した普及啓発の推進
5-4.外部団体主催事業への協力・出展	石狩市外を中心に、石狩浜及び保護センターについて積極的なPR。自主的な活動が円滑に進むための広報等を支援する。	外部ネットワークへの可能な範囲内で事業協力。自主活動への広報等の支援の実施。	→	・他団体が主催するイベントに参加
6. 調査研究の発信				
6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。	石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等を2～3件を目標に掲示する。	→	・調査者に活動報告の展示を依頼
7. 来館者のニーズ、意識把握				
7-1. アンケートの実施	来館者の意見を聞く機会の創出。	来館者の率直なご意見を伺い、運営の参考にする。 オンラインアンケートも検討する。	→	・可能な限り意見を事業に反映 ・オンラインアンケートも検討

## Ⅱ.データに基づく保全対策の実施

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標	具体的な業務内容
1. 現植生・生物相の把握			
1-1. 石狩浜モニタリング調査	【植物】 石狩浜の植生遷移や変化を把握、観察園における植生管理の基礎データ等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。	見本植生区のモニタリングを続ける。 遷移が進む植生帯の状況を把握する。	→ ・現地調査(7～9月)
	【動物】 石狩浜を利用する生物種を対象に、その種の動向を自動撮影カメラ等を用いながら随時状況を確認し、対策等に必要情報を収集する。	必要に応じて、種の生息地マッピング及び、生息状況の確認。	→ ・自動撮影カメラ等による生息状況の確認。
2. 植生管理			
2-1. 聚富海岸植生再生試験(モニタリング調査協力)	聚富地区における見本植生区の変化を蓄積する。	道総研との連携協力。	→ ・植生調査の実施等
2-2. 海浜植生の維持管理手法の蓄積(海岸草原保全手法の検討)	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。	見本植生区のデータに基づいた植生管理手法の検討・検証(観察園、ハマナス再生園)。 自生種による外来種防除実験の検証。	→ ・既存調査区のモニタリング

3. 希少種				
3-1.希少種イソスミレの生育状況の把握	希少種イソスミレの生育地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスミレの保全対策に繋げる。	生育が危ぶまれる個体群の保全対策の実施、検証。	↗	・分布、個体群調査(5月、9月) ・具体的な保全手法の実施(8～9月) ・今後のモニタリング手法について検討
3-2.ハマボウフウの生育状況の把握	保護地区内外のハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データにとする。	設定した調査ラインでエリアごとの生育状況、採取状況について把握する。	→	・サイズ別株数等の記録 ・監視員業務等の情報を用いて採取状況の把握
3-3.その他	環境省及び北海道のレッドリストに記載されている希少種、及び個体群として今後石狩浜で状況を把握する必要がある種(動植物)について、生育・分布情報をモニタリングし、対策に繋げる。	該当する種について生息・生育環境、数等について記録する。	→	・位置情報を記録、分布の把握
4. 外来種				
4-1. 現状の把握	石狩浜の生物多様性保全のために、外来種の早期発見と防除の実施を検討する。	他機関や他の調査等の情報をもとに、外来種の早期発見をすると共に、必要に応じて早急な防除対策に努める。	→	・多方面からの情報収集 ・必要に応じた現地調査
5. 資料・データの集約・管理				
5-1.標本の管理	地域資料の保管と、保全を進めるための情報の収集と管理をする。	適切な環境で保存されるように、日常的な点検をする。	→	・標本の定期点検 ・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など
5-2. 自然情報の収集・管理	環境調査、モニタリング、その他石狩浜に関わる調査研究の報告書などのデータを一括管理し、保全及び情報発信のデータベースとして構築する。	収集データ及び今後の収集するデータについて、まとめて公開できる体制を検討する。	→	・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など ・既存の蓄積データと今後の調査データを合わせた収集・管理の検討 ・公開の手法検討

### Ⅲ.自然資源の適正管理と適正利用

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

	項目	目的	年度目標	具体的な業務内容	
1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理					
	1-1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする。	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	→	・監視員の配置 ・現状の保護地区の監視、車両侵入への対応、ロープの補修等を実施 ・柵の維持管理 ・管理者との情報共有
	1-2.単管柵の維持管理			→	
2. 景観保全による観光資源利用					
	2-1. はまなすの丘公園周辺の植生維持管理	海浜植生の維持と、観光地の景観保全を目的にした植生管理を図る。	はまなすの丘公園のハマナスが見られる景観を保全するために、外来種等の防除を実施する。	→	・少人数でのニセアカシア等の除去作業の試行
3. 保護地区のルールの普及啓発					

	3-1. 体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発	自然とのふれあいを通じて、保護地区や石狩浜の自然に関する普及啓発を図る。	既存のプログラムや展示と連動した保護地区の普及啓発の実施。	→	・海浜植物を活用したプログラムの作成
--	----------------------------	--------------------------------------	-------------------------------	---	--------------------